





ミケランジェロ

- ( )
- ・メディチ家とローマ教皇の保護を受けた彫刻家、画家、建築家。彫刻では「  
」、「ピエタ」、「モーセ像」など代表作多数。絵画ではヴァチカン宮殿の( )の正面に描いた祭壇画である「  
」や、天井に描いた「天地創造」が代表作。



「ダヴィデ像」

『旧約聖書』のワンシーン、ダヴィデが巨人ゴリアテを倒すシーンを描いた作品である。左手に持っているのは投石機。フィレンツェにある本物を見たことがあるが、私が想像していたものよりはるかに大きかった。



「ピエタ」

「ピエタ」とは、イタリア語で「哀しみ」を意味し、十字架にかかったイエスを抱き上げる、聖母マリアの彫刻や絵画をさす。ミケランジェロは4作の「ピエタ」を作ったが、サン=ピエトロ大聖堂にあるこれが一番有名。



「最後の審判」

システィナ礼拝堂の天井や側面に、『旧約聖書』の場面がびっしりと描かれている。「最後の審判」や「天地創造」のシーンが有名である。一番中央に描かれているのが、救世主イエス。

## 2 ルネサンス三大発明

- ・( )・( )・( ) はルネサンスの三大発明とも呼ばれるが、実は東アジアで先に発明されていた。
- ・やはり中国で発明された( )も、12世紀にはヨーロッパへ伝わった。
- ・活版印刷は、15世紀半ばにドイツ人の( )により改良され、出版文化の飛躍的な拡大に大きく貢献した。
- ・また火薬からは大砲や鉄砲が発明され、騎士の没落をさらに早めた。



グーテンベルク



当時の印刷所

マインツ出身のグーテンベルクは、ぶどうの搾り機を改良して、印刷機を作ったといわれる。発明者というより、印刷システムの完成者と言った方がいいかもしれない。



中国の羅針盤

羅針盤というと堅苦しく聞こえるが、要するに小学校の時に使った方位磁針である。これで遠洋航海が可能となり、大航海時代につながった。



鉄砲を持つ傭兵

鉄砲の発明は戦術の変化を促し、馬に乗った騎士は無用の長物となった。兵士は金で雇われる傭兵が主流となった。

## 3 イタリア戦争とイタリアの混乱

- ・百年戦争に勝利した( )は、1494年にイタリアに侵入した。→イタリア政策を続けていた( )との対立が激化した。



マキアヴェリ

彼の思想はマキアヴェリズムと呼ばれ、「目的のためには手段を選ばない」という意味に誤解されている。

- ・この衝突を( )といい、イタリアは混乱した。→イタリアは戦場となり、イタリア=ルネサンスは徐々に衰退していった。  
※1527年、神聖ローマ帝国が「ローマの劫略」を行ったことが有名。
- ・( )は、イタリア戦争前後の混乱し分裂したイタリアについて、『  
』でイタリアの統一の必要性について述べた。  
→宗教や道徳と政治を切り離し、軍事力や権謀術数の必要性を主張した。